東 公民館

第18回中川原文化祭

中川原公民館主事　藤田和雄

11月23日（祝）、中川原公民館で第18回中川原文化祭が盛大に行われました。当日の催し物では、9時から11時まで野菜、果物、花き類、草餅、余剰品の販売が行われました。

また、即売品コーナーのジュース、フライドポテト、綿菓子、ビール、じゃこ天、いなり寿司、キツネうどん、焼き鳥などは、すべて売り切れになりました。中でも例年キツネうどんが好評で、12時過ぎには売り切れになりました。

展示コーナーには、児童作品の絵画、書と一般作品の俳句、短歌、手芸、生花などが展示され好評でした。

午後の部は、12時15分からの餅まきと、13時からの30名が出演する芸能発表です。白石町長にもご臨席を賜り、恋歌つづりを熱唱していただき、大変盛り上がりました。夜の部は17時30分から飛び入りで高校生の獅子舞が威勢よく行われ、満員の館内が熱気に包まれました。18時より各組代表の20名によりカラオケ大会が行われ、可愛かったで賞、プロ並みだったで賞などの特別賞を競い合いました。最後の本日初公開の相撲甚句はプロ顔負けの熱演で、マワシをつけた、にわか力士（百キロ級）2名の土俵は迫力満点でした。今年も目玉は11月22日の愛媛新聞に掲載されたひょこたん一座の芝居「旅館」で、「大変面白いぞな。」の前評判どおり、客席からのタイミングのよいヤジとのやりとりで会場は爆笑の連続でした。「来年も見てな。」で終演しました。新聞を見て、カメラ片手に松山から来館され、ひょこたん一座の由来を聞いている方もいました。

11月21日からの準備と24日の会場撤去は、地域の皆さんのご協力とご支援により、無事終了することができました。

▼今年も大賑わいの文化祭

▲芸達者な皆さんが集います

▼威勢よくバナナのたたき売り

人権・同和教育シリーズ　第242回

笑顔をありがとう

松前小学校教諭　前田たみ子

障害児教育に携わって11年目を迎えました。振り返ってみれば、若いころ、あれもこれもと、できるようになることを目標にして頑張っていた時もありました。でも、一人ひとりの歩みはゆっくりですが、子どもたちは、確実に前に向かって歩いていることを実感し、肩の力を抜くことができるようになりました。今年は、9名の子どもたちに囲まれ、毎日心温まる日々を過ごしています。

先日、地域の家庭教育学級学習会に参加する機会があり、講師の先生から一編の詩を紹介していただきました。

ほほえみは　お金を払う必要のない安いものだが
相手にとって非常な価値を持つものだ
ほほえまれたものを豊かにしながら
ほほえんだ人は何も失わない
（以下略）

これを読んだ時、私は子どもたち一人ひとりの顔が浮かんできました。

「先生、元気？よかった。」
「○○ちゃん、明日は学校へ来るかなあ。」

周囲の人を気遣い、優しい気持ちのこもった言葉に心をいやされました。楽しいことや嬉しいことを体全体で表現する子どもたちを見て、一緒になって心の底から笑いました。泣いている友達の顔を心配そうにのぞき込んでいる子どもに、無言の優しさを感じました。

家族の温かい愛情に包まれて育ってきたからこそ、人に対しても優しい言葉や笑顔をかけることができるのだと思います。こんな素敵な子どもたちと向き合える幸せを、今強く感じています。子どもたちに教えてもらった笑顔と優しさを忘れず、一緒に歩んでいきたいと思います。

若葉学級のみなさんへ
たくさんの笑顔をありがとう。